



AICHI
MACHINAMI
KENCHIKU SHO

表彰作品集 2018

第26回
愛知まちなみ建築賞



ART DIRECTION+DESIGN 高橋 新・岡村 香・藤澤 勉(AMP inc.)

主催 愛知県

後援 愛知県市長会
愛知県町村会
愛知県商工会議所連合会
中部経済同友会
愛知県都市計画協会
中部デザイン協会

協賛 (公社)愛知建築士会
(公社)愛知県建築士事務所協会
(公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会
(一社)愛知県建設業協会
(一財)東海建築文化センター
愛知県建築技術研究会

愛知まちなみ建築賞について



愛知県知事

大村 秀章

Hideaki Omura

愛知県では、魅力的な地域づくりには良好な景観形成が必要と考え、平成5年度に「愛知まちなみ建築賞」を創設しました。本賞は、地域における新しい建築文化の創造に寄与しているものや、地域のまちなみに調和し魅力的な景観の形成に寄与しているものなど、社会的貢献度の高い建築物やまちなみを表彰するもので、魅力ある地域環境の形成を図ることを目的としております。

今回は昨年度並みとなる68作品の応募をいただきました。これらの作品の中から、選考委員会で厳正な審査を行なういただき、最終的に7作品が受賞する運びとなりました。

今回の受賞作品は、賑やかなまちなみに上品に際立つ建築を目指したもの、ガラス張りの空間によって立体駐車場の一階を新たな交流の場へと変えたもの、増築部分を中心に屋外空間をつくり出し人を誘い込む空間を生み出したもの、失われた公園の緑を壁面緑化によって再生し地域の顔をつくり出したもの、既存木造住宅をリノベーションして隠れていた天井空間を表出

し奥行きをつくり出しているもの、共同住宅の一部を改修し地域の交流拠点として生まれ変わったもの、地域に親しまれていた歴史的建築物の保存を通して新たな街の風景を創出しているものなど、いずれも個性豊かで、まちの魅力アップに貢献している作品ばかりでした。これらの受賞作品がこれからも多くの人々に愛され、また地域の魅力ある景観づくりに寄与していくことを強く願っています。

最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ、深く感謝申し上げます。今後とも県民の皆様と連携して魅力と潤いのある地域づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

受賞作品 (50音順)

- 01 岡崎信用金庫 名古屋ビル [名古屋市中区栄一丁目]
- 02 クリばこ [名古屋市中村区名駅南]
- 03 dog salon GRUM [岡崎市鴨田町北浦]
- 04 名古屋市営金城ふ頭駐車場 [名古屋市港区金城ふ頭二丁目]
- 05 House NI -裏とオモテと境界- [知立市]
- 06 パンとみんなとしげんカフェ「ソーネおおぞね」 [名古屋市北区山田二丁目]
- 07 広小路クロスタワー・旧名古屋銀行本店ビル [名古屋市中区錦二丁目]



練り込み技法による記念銘板

作/陶芸家 水野教雄

良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているものうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

選考基準

- 1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。(以下例示)
 - 新しいまちなみの形成を先導し、モデルとなるもの。
 - デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
 - 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。
- 2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。(以下例示)
 - 地域の風土を生かし、地域文化の継承に寄与しているもの。
 - まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
 - 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。
- 3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。(以下例示)
 - 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
 - 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
 - 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。
- 4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

選考経過

推薦・応募対象	愛知県内で、平成25年4月1日から平成30年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準のいずれかに該当するもの。
推薦・応募期間	平成30年7月1日から平成30年8月20日まで
推薦・応募総数	69通(68作品)
第1回選考委員会	平成30年9月7日 一次選考を行い、19作品を二次選考対象とした
第2回選考委員会	平成30年11月2日 二次選考を行い、7作品を選定
表彰式	平成31年1月29日

選考委員

(順不同/敬称略)
★印は選考委員長

★ 武藤 隆	大同大学 教授
生田 京子	名城大学 准教授
北川 啓介	名古屋工業大学大学院 教授
太幡 英亮	名古屋大学大学院 准教授
村山 顕人	東京大学大学院 准教授
森 真弓	愛知県立芸術大学 准教授
柳澤 講次	公益社団法人愛知建築士会 会長
松岡 由紀夫	公益社団法人愛知建築士事務所協会 会長
吉元 学	公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会 地域会長
海田 肇	愛知県建設部 建築局長

まちなみ建築賞総評

平成5年から始まった愛知まちなみ建築賞は、今年で26回目を数えるが、この賞も今回が平成としての最後の回となる。将来、愛知の建築文化を振り返った時、ある一時代の記録や価値観の縮図としてのこの愛知まちなみ建築賞の蓄積は、有意義なものとなるに違いない。

今年度は、県内各地から68作品の応募があった。愛知県の「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」に適合しないもの3点を除外して、65作品を審査の対象とした。地域ごとでは、名古屋市が29点、尾張地域20点、西三河地域14点、東三河地域2点となっており、昨年度とほぼ同様な分布であった。1次選考では、この中から19点を2次選考対象作品とした。11月2日に行われた2次選考では、作品ごとの詳細資料・図面ならびに現地撮影した映像資料などを用いて選考委員による討議を行い、7作品を選定した。

受賞した個々の作品についての詳細は各委員の講評をお読みいただきたいが、今回の審査全体で特筆すべき点としては、受賞作品のほとんどがリノベーションや増築、歴史的建築物の保存など、「再生」に関わるものであったことだ。『House NI -裏とオモテと境界-』のように既存の一戸建ての住宅を耐震補強や減築という手法でリノベーションしつつ、まちとの関係を再解釈したものや、『クリばこ』と『バンとみんなとしげんカフェ「ソーネおおぞね」』のように、コンテキストの強い既存施設の一画だけを新たなプログラムとともにリノベーションしたもの、その一方で『広小路クロスタワー・旧名古屋銀行本店ビル』のように都心での歴史的建築物の保存と大規模な再開発を共存させたものや、『dog salon GRUM』のように不揃いな街並みの中におけるささやかではあるものの効果的な増築など、手法の違いや規模の大小、ロケーションの違いなどその個々の

状況はさまざまではあるけれども、プログラムや設計における「再生」への意思と提案とがどのように結実すれば、新築だけではできない良質なまちなみを形成することのできるもうひとつのあり方であるという示唆を与えてくれている。その反面、単なる新築の建物とは違うこれらの対象物の審査には、「まちなみ建築賞」ならではの様々な評価に対して議論が生じ、受賞作品の決定までに混迷を極めたことも事実として記しておく。また、直接「再生」に関わるものではなかったが、銀行という閉鎖的になりがちな施設を街区に対して開放的なものとしている『岡崎信用金庫 名古屋ビル』や、港湾地区の文脈を生かしつつ快適な環境と景観を形成している『名古屋市営金城ふ頭駐車場』も高い評価を得た。

平成最後となる今回の「まちなみ建築賞」では、これから訪れるであろう、スクラップアンドビルドや右肩上がりではない新しい時代において、残すことと新たに作ることのバランスがいかに「まちなみ」に重要な影響を与えるかということに対しても、大きな示唆を与えてくれている。恐らく、今後の「まちなみ建築賞」では、新築の建築よりもむしろ、「再生」に関するものの応募がより一層増えていき、そこでの「まちなみ」への提案こそが、次の時代の新たな評価軸や価値観となっていくことだろう。



大同大学教授

武藤 隆

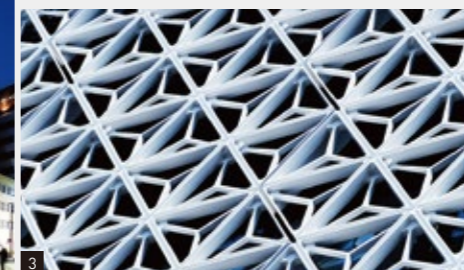
| Takashi Muto

岡崎信用金庫 名古屋ビル

おがぎしんようきんこ なごやびる



1,2,3 photo/鈴木文人(2017)



名古屋市中区栄一丁目

名古屋市中区、特にこの伏見エリアや栄エリアではまちが急速に生まれ変わろうとしており、役目を終えた建築物が姿を消し、また新たな景観となってまちなみを形成している。

名駅と栄を東西に走る三蔵通と、名古屋城から大須へ南北に走る御園通の交差する場所に新たに姿を見せたこの建築物は、一見外装のアルミキャストスクリーンにより洗練されすぎた印象を受けるが、「麻の葉」をモチーフとした伝統和柄の採用により御園座エリアの持つ和の雰囲気不思議と馴染んでいる。

昼間は数本の柱により支えられた上部のインパクトに目を奪われるが、辺りが暗くなるとまた違った様相を見せる。地上2階まではガラススクリーンにより内部の光が漏れ出し、上部は闇に溶けたアルミキャストスクリーンが、静かに華やかに光の演出をし、歌舞伎演芸場界隈を道行く人を楽しませている。

閉鎖的になりがちな銀行建築が美しくそこに存在し、積極的にまちに開いていった結果、このエリアのまちなみを形成する一つのファクターとなっており、これからの銀行建築のあり方に可能性を感じられる作品となっている。

●海田 肇 Hajime Kaiden

建築主	岡崎信用金庫
設計者	株式会社 日建設計
施工者	小原建設株式会社
概要	主要用途 金融機関事務所
構造	鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地下1階、地上7階
敷地面積	892.66㎡
建築面積	589.98㎡
延床面積	3,789.88㎡

01

クリばこ

くりばこ

名古屋市中村区名駅南



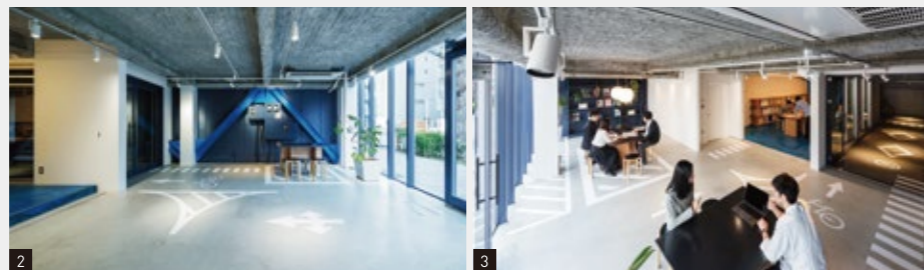
建築主 近喜ビルディング株式会社
 設計者 有限会社 タイプ・エービー
 施工者 株式会社 日東建設 / 利建T・S 株式会社
 概要 主要用途 クリエイティブラウンジ、事務所、駐車場
 構造 鉄骨造
 階数 地上6階
 敷地面積 690.06㎡
 建築面積 550.86㎡
 延床面積 3,321.42㎡(改修範囲:97.65㎡)

「都市の魅力度2年連続最下位」といったニュースを聞くことが多い名古屋である。その調査の妥当性は別として、そうしたイメージを与えてしまう大きな要因のひとつに「まちなみ」があるように感じる。日常的に、または来訪者として都市を歩き、佇み、楽しむ空間という観点からすると、愛知・名古屋の「まちなみ」はやや頼りない。それはひとえに、移動の効率性を重視し、自動車、道路や駐車場を優先した都市空間の現状によるのではないか。その意味で、都心部の立体駐車場の1階をリノベーションして、「まちなみ」として見えるものを「車」から「人々の集い」に変えた「クリばこ」は

象徴的である。愛知・名古屋の風景を変えていく、とても小さな取り組みであり、大きな可能性を秘めたモデルである。

評価のポイントはこの波及性・発展性にあった。異種用途区画でオフィスやラウンジスペースをつくり、シンプルなガラスのファサードと、床には楽しいペインティングが施された。立体駐車場の1階が変わるだけで人々が歩く「まちなみ」に与える効果は絶大である。この小さな取り組みが広がり、弱みを強みに反転し、愛知・名古屋らしい個性を作り出していくことを期待したい。

●太幡 英亮 Eisuke Tabata



1,2,3 photo/新建築社写真部(2018)

dog salon GRUM

どぐ さろん ぐらむ

岡崎市鴨田町北浦

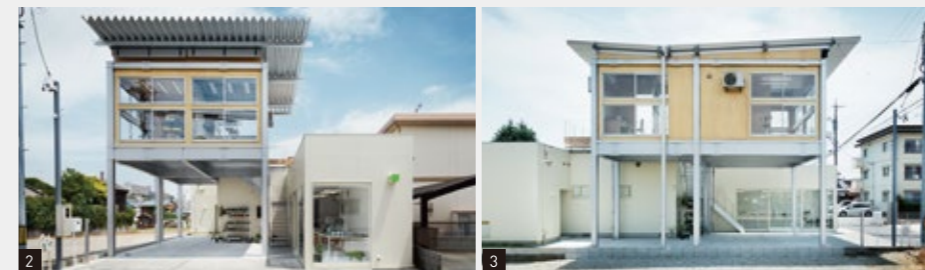


盛り盛りの「インスタ映えする建築」がもて囃される一方で、違った価値観を持った建築に出会えた。岡崎の大樹寺という歴史ある寺の近くであり、道は昔のままうねっているのだが、今ではありふれたアパートや住宅が建っている。この建築を写真で見たときには周りの街並のことなど考えていない「歪が目立つ」「カッコ悪い」建物でしかないと感じた。建築とは合理的な設計条件を満たすだけでなく「プロポーションが良く」「カッコ良く」なければいけないと教育されてきた者には理解できなかった。既存の住宅に増築したのだが、何でこんなにのっぴな

プロポーションなのだろうか?実際にしてみると折版のフラットルーフが不思議と街と合っている。高い階高によって既存の街路と関係性が生まれ、使い手と街とのプライバシーも成り立ちそうである。この街に異物として挿入されているのだが、一面この街のルールにも則っている。この街の建物がさまざまな環境に置かれている人々の「総体」を表していると考え、さまざまな形で現れてくる建物を積み上げていく手法が必要なのかもしれない。百聞は一見にしかずであった。

●吉元 学 Manabu Yoshimoto

建築主 河内義博
 設計者 畠中啓祐建築設計スタジオ
 設計監修 スキーマ建築計画
 施工者 箱屋
 概要 主要用途 店舗併用住宅
 構造 鉄骨造※増築部のみ
 階数 地上2階
 敷地面積 371.04㎡
 建築面積 214.02㎡(施工面積37.80㎡)
 延床面積 200.98㎡(施工面積42.30㎡)



1,2,3 photo/太田拓実[太田拓実写真事務所](2016)

02

03

名古屋市営金城ふ頭駐車場

なごやしえいきんじょうふとうちゅうしゃじょう

名古屋市港区金城ふ頭二丁目



建築主	名古屋市
設計者	株式会社 竹中工務店
施工者	株式会社 竹中工務店
概要	主要用途 駐車場
	構造 鉄骨造
	階数 地上6階
	敷地面積 30,521㎡
	建築面積 26,648㎡
	延床面積 143,982㎡

金城ふ頭エリアは、名古屋市が「モノづくり文化交流拠点」として、名古屋の新たな「名所」づくりを行ってきたエリアである。テーマパークや商業施設、スポーツ施設などが集まり、賑わいや魅力を発信する。その大量の来訪者に対応するため、中央緑地公園跡地に、約5000台を収容する日本最大級の大型立体駐車場が作られた。名港中央インターチェンジと直結し、内部通路経由で金城ふ頭駅と各施設への歩行デッキを繋ぐ。

東西面に施されたルーバーには、この地域では馴染みのワイヤーを用い、圧迫感を抑えるのと同時に、緑化の誘引材を兼ね西日侵入

を抑える機能を持たせた。ルーバーの縦糸と駐車場側に張り巡らされた横糸とで、壁面に緑が織り込まれ、かつてよりそこにあった緑の記憶を引き継ぐ。対して南北面は、300mと長く現れる階層をそのまま見せ、そこに並走している高速道路と呼び寄せた。歩道側からと車道側からの目線に対して大胆に印象を変えており、巨大なボリュームを感じさせない。無機質になりがちな立体駐車場が多い中でも、この作品はエリアの玄関口にふさわしい、豊かで魅力的なまちなみを形成することに成功している。

●森 真弓 Mayumi Mori



1,2,3 photo/新名 清【株式会社エスエス 名古屋支店】(2017)



3 photo/新名 清【株式会社エスエス 名古屋支店】(2017)

House NI -裏とオモテと境界-

はうすえぬあい うらとおもてときょうかい

知立市



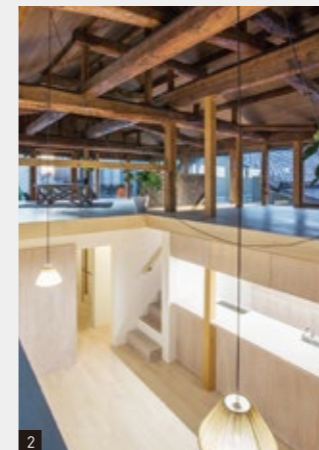
新築による建築物とは異なり、親が長らく子育てしてきた住宅は、家族の愛着や記憶に満ちており、その時間、その場所を経てきたからこそその住まいや住まい方を実現することも可能である。一方で、欧米と異なり地震も多く湿度も高い日本においては、度重なる建築基準の改訂が示すように、住宅の寿命はそれほど長くはなく、耐震性、断熱性、気密性、遮音性といった、新築時から半世紀近くを経たからこそその特有な課題が併存する。

House NI-裏とオモテと境界-は、そうした双方の要請を巧みに取り込み、少子高齢化へ向かう時代の地方都市の市街化調整区域に

おける状況を受け入れた秀作である。未来のまちなみへ積極的に関与していく建築物のあり方を、歴史を経た小さな住宅から指し示している。人の視界にそびえたちやすい鉛直方向で施される一般的な耐震補強ではなく、既存の天井面の建築内部の水平方向の耐震補強を活用することで、住宅の二階の外壁面の四周をガラス面として既存の小屋根みやスケールなどの長き記憶をまちなみへ開放している。選りかわる社会状況を敏感に察知し、ただ建てるだけではない、より理想的な建築とまちを探究する姿勢を高く讃えたい。

●北川 啓介 Keisuke Kitagawa

建築主	I氏
設計者	1-1 Architects 一級建築士事務所 神谷勇机+石川翔一
施工者	平田建築株式会社
概要	主要用途 専用住宅
	構造 木造
	階数 地上2階
	敷地面積 443.56㎡
	建築面積 103.33㎡
	延床面積 174.43㎡



1,2,3 photo/1-1 Architects 一級建築士事務所(2017)



3 photo/1-1 Architects 一級建築士事務所(2017)

04

05

パンとみんなとしげんカフェ 「ソーネおおぞね」

名古屋市北区山田二丁目

ぱんとみんなとしげんかふえ「そーねおおぞね」



建築主 社会福祉法人 共生福祉会
 設計者 LLC 住まいまちづくりデザインワークス
 施工者 アイシン開発株式会社
 概要 主要用途 障がい者就労支援施設
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
 階数 地上11階建の1階部分
 敷地面積 16,267.13㎡
 建築面積 3,653.91㎡
 延床面積 31,747.11㎡うち用途変更812.13㎡

本計画は築45年程の団地の1階に設置された地域交流拠点である。周辺には同様の古い団地が多く、高齢化も進み空き部屋も目立ち始めていると言う。スーパーが撤退してシャッターが連なっていた場所に、こうして地域のニーズにあわせた交流拠点が開かれたことが高く評価される。日用品の販売・障がい者の就労の場にもなるカフェ・イベントスペース・生活相談窓口などが設けられ、今後も高齢者が増加することが予測される中、安心をもたらす拠点となっている。なお審査の過程では「まち

なみ」とは何を指すのかという議論があった。狭義に捉えれば、建物外観に表出する建築的なデザインと街の連続性を指すことになる。その意味だけで捉えると西面などの扱いについて一部厳しい意見も見られた。しかし広義で捉えれば、本計画は今後周辺の街を変えていく、新たなきっかけになる重要な計画ではないかと言う多数意見により「まちなみ」賞に値すると評価された。

●生田 京子 Kyoko Ikuta



広小路クロスタワー・ 旧名古屋銀行本店ビル

名古屋市中区錦二丁目

ひろこうじくろすたわー・きゅうなごやぎんこうほんてんびる



「広小路クロスタワー」新築と歴史的建造物「旧名古屋銀行本店（現在三菱UFJ銀行）ビル」の保存改修を目指したプロジェクトである。

古い建築物は人々が利用して、何らかの結果、または経済的な効果が無ければいずれは取り壊される。それができずに取り壊される古い建物はいくらでもある。他の芸術と違い存在しているだけで多額の維持費がかかる。再生の難しさはそこにある。

このプロジェクトは高層ビル「広小路クロスタワー」との組み合わせで見事にこれらの難問を解決している。特に旧名古屋銀行本店ビル（コンダーハウス）は栄・広小路地区の特色をさらに鮮明にした。今まで静かに閉まっていたその玄関扉、前を通っても何も感じなかった。しかし建物の扉が開き、その前にメニュー板が置かれると、広小路を歩くのが楽しくなる。誰もが「鈴木禎次の建築」を味わい、92年前の世界が体験できる。

素晴らしい建物に生まれ変わった。今後このような本当の意味での再生がどんどん実現することに期待する。

●柳澤 講次 Koji Yanagisawa

建築主 名古屋デベロップメント特定目的会社(三菱地所株式会社)/積水ハウス株式会社
 設計者 株式会社 三菱地所設計/株式会社 竹中工務店
 施工者 株式会社 竹中工務店
 概要 主要用途 事務所、店舗、駐車場(広小路クロスタワー) 集会場(旧名古屋銀行本店ビル)
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造(広小路クロスタワー) 鉄筋コンクリート造(旧名古屋銀行本店ビル)
 階数 地下1階、地上21階(広小路クロスタワー) 地下1階、地上6階(旧名古屋銀行本店ビル)
 敷地面積 約4,581㎡
 建築面積 約2,340㎡(広小路クロスタワー) 約940㎡(旧名古屋銀行本店ビル)
 延床面積 約44,243㎡(広小路クロスタワー) 約4,875㎡(旧名古屋銀行本店ビル)



1,2 photo/株式会社エスエス 名古屋支店(2018) 3, photo/株式会社エスエス 東京支店(2018)

06

07